



# 芥川龍之介のすすめ

その1

皆さん、こんにちは。国語総合の教科書に収録されている芥川龍之介の「羅生門」は既に読みましたか？（課題にも出しましたので、きっと大丈夫ですね！）授業では「羅生門」を読み深めるのは勿論のこと、それ以外の作品にも興味を持ち、学習に繋げてほしいと思います。ここでは、「羅生門」以外の芥川作品を紹介します。

## 『蜘蛛の糸』 あらすじ

ある日のこと、極楽の蓮池の周りを散歩していたお釈迦様は、ふと池の中をご覧になった。澄み切った水を通して映し出されたのは、地獄で苦しむ罪人たちの姿。その中に、犍陀多（カンダタ）という男がいた。彼は生前、殺人や放火をした泥棒であったが、過去に一度だけ善行を成したことがあった。それは、小さな蜘蛛を踏み殺しかけて止め、命を助けたことだった。それを思い出したお釈迦様は、彼を地獄から救い出してやろうと、一本の蜘蛛の糸を下ろした。すると……。



中学校国語の教科書にも収録されている作品です。皆さんの中にも、読んだことのある人がいるかもしれませんね。一読すると、欲にまみれた悪人を裁く話のように感じますが、「なぜお釈迦様は犍陀多を助けようとしたのか」「なぜ蜘蛛の糸だったのか」など多くの疑問が出てくると思います。疑問を持ち、自分なりの答えを言葉に表すことは、国語の学習でとても大切なことです。この作品を機に挑戦してくださいね。

芥川龍之介の作品は既に著作権保護期間を経過していますから、インターネット上でも読むことができます。ぜひ検索してみてください。